

## ヨーロッパ地域のコロナウイルス感染状況

古屋祐樹 ([21911316yf@tama.ac.jp](mailto:21911316yf@tama.ac.jp))

高橋 芳 ([21911217kt@tama.ac.jp](mailto:21911217kt@tama.ac.jp))

吉田ユリカ ([21911384py@tama.ac.jp](mailto:21911384py@tama.ac.jp))

私たち小林昭菜ホームゼミでは、2020年度から世界各国のコロナウイルス感染状況のデータを集計し、各国の感染対策を分析してきた。本報告ではコロナウイルスの感染が確認されてから今日までの状況を各国で比較、分析する。分析対象とする国はイギリス、ドイツ、スペインの3カ国である。

本報告は、上記ヨーロッパ地域でのコロナウイルス感染状況に類似性や相違性があるかどうか、各国の感染対策の独自性に注目し、報告を行う。

- ロックダウンの期間とその効果
- 感染対策措置
- 感染者数・死亡者数
- ワクチンの種類と接種状況
- 出入国状況

本報告では、感染者数が急激に増大しロックダウンを経験してきたヨーロッパにおいて、早々にコロナワクチン開発へ着手しこれに成功したヨーロッパを評価する。しかしながら、医療先進国である日本では依然として感染者数増大を抑えられていないだけでなく、医療が逼迫する危機に直面しつつあり、国内産のワクチンの開発もできていない。この部分の反省は、同じく医療先進国ドイツやイギリスといったヨーロッパ地域の状況を考察することで、日本が抱える問題点が浮き彫りになることも期待されるはずである。